

普通科作業学習「陶芸班」

授業実践ギャラリー

陶芸班

陶芸班の目標

1学期

- ・色々な作業を体験しよう
- ・担当する作業の手順を覚えよう

2学期

- ・一人でできることを増やそう
- ・あいさつ・返事をしっかりしよう

3学期

- ・製品の精度をあげよう
- ・ほうれんそうを意識しよう
(報告・連絡・相談)

制作手順(製品のできるまで)

0	粘土再生	
1	計量	
2	制作(たたら、でいしょう、機械ろくろ)	
3	サンダー	
4	(素焼き前)ヤスリ・なめし	上側
5	素焼き	
6	(本焼き前)ヤスリ	上側
7	ロウづけ	
8	釉薬	
9	本焼き	
10	(仕上げ)ヤスリ	下側
11	洗い	
12	値札つけ	

普通科作業学習の「陶芸班」の様子をご紹介します。

陶芸班ではお皿などの製作を通して、指示を守って規格通りに製品を作ることを学んでいます。

陶芸は比較的製作工程が多い作業種です。
器の形をつくるのもいくつかの手法があります。
今日は泥漿（でいしょう）鑄込みと呼ばれる手法で小鉢を作っていました。





前の製作過程で出て硬くなってしまった粘土を土練機で再生させるために、ある程度の大きさにちぎっています。



地味な作業ですが、決められた時間内は集中してがんばっています





泥漿（でいしょう）と呼ばれる、やわらかめの粘土を型にいれて機械ろくろにセットし、アームにつけられたへらを押し当てることで、均一な小鉢が形作られます。



不要な部分を削り取ったり、内側の仕上げを手の感触で行ったりと、ほとんど職人といった手際の良さでした。



こちらでは素焼きが終わった小皿のバリ取りを行っていました。釉薬をつける前の最後の工程。ここの丁寧さが焼き上がったときのなめらかさに直結しています。丁寧な仕事ぶりです。

お皿の裏側、下に設置する部分に撥水材を塗布しています。この部分に釉薬がついてしまうと焼き窯にくっついてしまうためです。



釉薬をつけた後、もう一度裏側を拭きとります。釉薬が窯の底に焼き付いてしまうと、お皿の底もガサガサになって、売り物になりません。ひとつひとつ、丁寧にふき取っていました。



こちらのお皿は実習棟前に生えている葉をつかって葉脈を写し取っています。
2月に予定されている作業製品販売会で販売予定です。